

コミュニティバスの課題と見直しの動き

コミュニティバスの課題(1)

- 高齢者の外出支援に効果～一方で伸びない利用、かさむ財政負担に課題
- コンセプトをしっかりと構築しニーズ調査を丹念に～政治色を排除～誰のために走らせるのか
- 地域としての位置づけと行政の責任範囲を明確に～運賃やコースに「ありき」を排す
- ブームに乗ってつくってしまったコミュニティバス/きちんと考えずに拡大してしまった2路線目以降～フォローアップなき継続・拡大
- コミュニティ交通は万能ではない～欲張ると誰にも使いにくいものに
- 特に「福祉」との境界は議論が必要～福祉機能と乗合交通としての利便性は必ずしも一致しない

コミュニティバスの課題と見直しの動き

コミュニティバスの課題(2)

- 既存路線バスとの重複・競合～路線バスの利用を蚕食～本来路線バスとはコンセプトも機能も異なるはず
- どこまで手厚いサービスをすべきか～タクシー事業への影響
- 市町村の行政区界に左右されるコミュニティバス～広域ニーズとの関係・近隣同士の無駄
- コミュニティバス独自の手法の採用による地域アンバランス～ワンコイン運賃は利用しやすいが、安い運賃に対して財政負担～運行されていない地域との不公平
- ではコミュニティバスを要望に応じて際限なく拡充できるか

コミュニティバスの課題と見直しの動き

なぜ利用されないコミュニティバスができてしまったのか

- コンセプトのふらつき～誰のため、どんな目的で走らせるのか
- 本音のニーズ調査の不足～アンケートは期待値が入る
- 先行事例・近隣事例の模倣～本当にその地域に合ったシステムなのか
- 長大路線・わかりにくい設定～乗りたいと思わないコミュニティバス
- 路線を拡大するときにあらかじめニーズ検証をせず、勢いで増やしたケースの多さ
- 外来者には情報がないコミュニティバス

コミュニティバスは救世主か

コミュニティバスがはまりやすい落とし穴 (1)

- 成功事例の見様見真似～うちも「ムーバス」を
- 「コミュニティバス」「デマンド型乗合タクシー」等を走らせたなら課題のすべてが解決するという思い込み
- 地域からの要望＝利用（需要）という思い込み
- 住民ニーズやコンセンサスより首長の公約・議員の意向が優先される仕組み
- 一度走らせたらもうやめられないという思い込み
- すべての地域に同等のサービスをすることが公平・平等だという思い込み
- 「コミュニティバス」等は赤字でも当たり前・仕方がないという思い込み

コミュニティバスは救世主か

コミュニティバスがはまりやすい落とし穴 (2)

- 自治体がすべてを考え、面倒を見るべきという考え方
- バスや乗合タクシー等に乗ったこともない・乗る意思もない人たちでこれらの取り組みについて考える愚
- 住民説明会や検討委員会等はとりあえずやらなければならないという思い込み～必要な議論より手続き重視
- コミュニティバスたるものワンコイン運賃の循環型であるべきという思い込み
- 高齢者の行先は病院、市役所へのアクセスが不便など、ニーズに対する思い込み
- 運行を開始したらそれで万事OKという思い込み
- とにかく走らせればそれで役目を果たせるという思い込み

課題のあるコミュニティバス

要望を受け入れすぎて長大かつ複雑なルートとなり利用度が低下したケース（旭川市）



満遍なくサービスをとばかり全域に100円バスを拡大 利用はあるが莫大な投資（港区「ちいばす」）



今後の公共交通に向けてのポイント

いちばん大切なのは「持続できる」交通の仕組み

- 公共交通は走らせればそれでよいというものではない～5年後・10年後に続いていかなければ意味がない
- どこかに過大な負担がかかる仕組みでは今後もたない～市・交通事業者・市民の役割を明確に
- 採算はすべてではないが無視はできない～赤字が増え続けると将来もたない～少なくとも利用者が増やせる設定に
- 本当に必要なものは地域のロケーションによって異なる～地域の中で議論を
- 今ある資源（既存乗合バス・タクシー等）を上手に活用できる方法はないか～新たにつくるより安価で効率的な方法も
- STS（ドアツードアに特化した福祉移送サービス）との関係をきちんと議論
- 成功事例や近隣の動向に惑わされず、地域に合った自前の（身の丈に合った）計画を

みんなが当事者になって持続できる地域公共交通を育てる

みんなが当事者になり地域交通を育てる

- 行政が一方的に与える仕組みでは今後もたない
- 地域の足の問題は自分自身の問題
- 単なる要望から自ら動き考え提案する住民へ
- 本当に必要なものとは何か～本音のニーズを住民自身で検証
- 必要なものなら地域のみんなでできることを考え実行し、責任分担する
- 地域でできることはいろいろある～みんなでつくり、支え、育てる
- 意見交換の場と繰り返し行う議論が大切

みんなが当事者になって持続できる地域公共交通を育てる

行政の役割

- 住民だけでできることにも限界～行政も役割分担
- 「満遍なく走らせるのが公平」という発想からの脱却
- 「赤字補填」から「社会的投資」への転換
- 行政は地域交通のコーディネーターであり調整役～地域に入って地についての議論～汗をかく
- 地域が動いたところから優先的に支援～本来の公平性はあるのか
- コンセンサスのとれる財政負担～ガイドラインを

事業者の役割

- 安全・安心・効率的な運行にプロのノウハウを生かす
- 自らニーズをつかみノウハウをベースに提案型への転換
- 利用促進に向けての工夫と発想の転換

みんなが当事者になって持続できる地域公共交通を育てる 〈みんなでつくり育てるコミュニティ交通〉

住民が企画しバス事業者・沿線企業などの協賛を得て官民協働で維持するケース（千葉県市原市）



住民・事業者が協力して計画、沿線企業が利用促進に協力し行政が後方支援する乗合タクシー（広島市）

